
神様に転生

AAA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様に転生

【Nコード】

N1390BA

【作者名】

AAA

【あらすじ】

王の臣下の息子アルファが突然暗殺者に襲われ殺された。そしてアルファは神へと転生する。

この作品は作者の処女作です。

温かく見守ってください。戦闘描写に自身がありません。

第1話

アルファはレイン王国の1人娘のサラと鬼ごっこをしていた。

黒髪黒眼、髪は肩にかかるか否かの長さ、顔は整っている方だ。

一方サラの方は、銀髪を腰まで伸ばし、王家の証である青い瞳、今は6歳で美少女と称されるが、成長すれば絶世の美女と呼ばれもてはやされるだろう。

2人の関係は幼馴染であり、彼らの知る世界（6歳の温室育ちの世間知らずだが）の中で唯一の友人であった。

「はあ、はあ、サラは足が速いね。僕の魔力付加した足よりも速いなんて…」

「当たり前です。王族の私が臣下に劣っているとは将来国を治めることなんて出来ません。それではこの国を見守ってくださっている神レイン様に見放されてしまいます。」

「ううゝけど僕一応男んだけど、女の子に負けたのは悔しいな。」

「

別にいいんじゃない？あなたは私に守られる側なんだから。」

サラはそう言うのと砕けた口調になった。

「ああ！！もうすぐ科学の時間だわ。ごめんなさい、もうサイト先生が来ちゃう、じゃあね、また明日」

王位継承者であるサラは様々な家庭教師からあらゆる学問を学んでいた。

むろんその臣下となりサラを支えることに将来なるアルファも英才教育を受けていた。

（さてサラも王城に入ってしまったことだし、家に帰ろう。そういや今日は珍しく父様が家に居るんだ。早く帰らなくちゃ）

王家に仕えて政治を行うアルファの父は普段忙しい。なのでこの日のように家に日が暮れる前に居るのは珍しいことだった。

「お父様、お母様、ただいま帰りました。」

第1話（後書き）

初めて書く小説はやはり難しいですね。
感想はお手柔らかにお願いします。

第2話

「お父様、お母様、ただいま帰りました。」

そう言ったが、中からの返事がない。

いつもなら家のメイドが出迎えに来るのに。

戸惑いながらも家の中にあがったその先には、

血まみれのテーブル、床、いつもきれいに磨かれていた、開放的な造りの家は大量の血に染まり、異臭を放っていた。

「な、な、何が」

アルファは錯乱したように父と母の名を呼ぶ。

「お父様、お母様、どこ、どこに居るの、ねえ、隠れてないでや
く出てきてよお、ねえ」

いたるところに倒れているメイドの死体を踏みつけながら、進む。
血に足をとられ転びその黒い髪が赤黒くなりながらもさがした。

すると、寝室に入ったとたん異臭が強く感じられた。

そこには喉笛をナイフで刺されたアルファの父と母、そしてたくさん
の風穴が開いた15人のメイドの成れの果てを見た。

「ひい！怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い、

うああああああああああああああああ」

そして寝室から逃げるようにして飛び出すと玄関の方へ必死に走っ
た。

狂ったように走るが、何故か玄関へたどり着けない。

玄関への扉を開けるとそこは先ほどの寝室についてしまうのだった。

「ぎゃあああ、やめてやめてやめて怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い
ああああ」

もう1度玄関の方へ走るが結果は同じだった。

もしこの状況でアルファが冷静であったのならこれは敵がしかけた
空間転移の魔法だとすぐにわかっただろう。

しかしこの家の惨状を見たときにすでにアルファの理性は飛んでし

まっていた。

さらに世界は少年に対し、追い討ちをかけた。

なんと父と母を殺した暗殺者はまだアルファの屋敷にひそみアルファを殺そうと忍び寄っていた。

そしてアルファは死んだ。それはある夏の日の事だった。

サラは殺された親友を想い、1月の間部屋で嘆き悲しんだという。

第2話（後書き）

さて、ようやく転生後の事を書けそうです。
舞台は10年後です。

第3話 世界観の設定

国

レイン王国

4 大国の1つ

ヒロインのサラが王位継承者
転生前のアルファの住んでいた

4 大国の中で最も魔法が進んでいる国

ライル学園

4 大国の中の唯一の教育機関

あまりにも広いため1つの中立国家とみなされている

ここでの最高権力者は生徒会長と学園長の2人

サラはここに7歳という最年少で入学し、現生徒会長を務める。

ロード帝国

4 大国の1つ

剣技に力を入れた国家

学園を卒業したこの国の若者の99%は騎士団に入隊する

ネロ聖都

ネロ教という宗教国家

その他

ギルド

国や個人からの依頼を多額の報酬と引き換えに受ける。

依頼にも難易度があり、SS～Fランクまである

それにあわせてギルドや国が1人1人にランクをつけ、実力に見合った依頼を受けさせるようにしている。

SSランクは世界に5人しかいない。(その中の1人はサラ)

第3話 世界観の設定（後書き）

時間が過ぎるのは速いなー

第4話

「ふう、これで最後ね。」サラはちょうど新学期の新入生のランク、入学試験の結果などが書かれた書類の山に眼を通していた。

「今年の新入生は去年よりも出来が良いそうですよ。主に素行ですが。能力面は去年の生徒よりも劣りますが。」

「去年の新入生は本当に手がかかったもの。先生方もそこらへんちやんと考えてくれたらいいわね。もう今年はある馬鹿がいない事を願うわね。終わったわよ、レン。」

「お疲れ様です。紅茶でもいかがですか。サラ。」

レンと呼ばれた男は執事のように自然な振る舞いで話しかけた。

「今年度入学したみなさん、あなたたちはこのライル学園に入学し、これから勉強にはげみ生涯の宝となる経験をし……」学園長の長い祝辞が続き、生徒会長のあいさつに変わる。

「新入生のみなさん入学おめでとございます。」

「うおおー 会長おー」

「この学園では私が絶対です。くれぐれも校則をやぶらないよう気をつけて下さい。もうすぐ校内武道大会があるので新入生のみなさ

んはそこで自分の实力を確認して下さい。」サラは見る者を惹きつける天使のような笑みをうかべながら話を締めくくった。

同時刻学園内の商売地区にて、

「はあ、人間界なんて4千年ぶりだなあ。つつてもこっちじゃ10年しかたつてないのか。」

そこに、黒髪黒眼の青年がいた。

第4話（後書き）

予定より短くなってしまいました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1390ba/>

神様に転生

2012年1月4日12時45分発行